

矢作川研究No.12の発刊にあたって

豊田市矢作川研究所 所長
水谷 清

市民の皆様をはじめ多くの方々には、豊田市矢作川研究所の運営に日々多大なご支援、指導、協力をいただき心よりお礼を申し上げます。

平成19年度は、研究所にとってはなにかと慌ただしい日々であったように思われます。4月に淡水魚の研究者として知られる秋篠宮殿下の視察の栄に預かることができました。2日間に亘りましたが初日は「淡水魚保護活動」をテーマとして県内の淡水魚をはじめ水辺の生物の保全活動の勉強会を開きました。翌日は、矢作川研究所の取り組みと研究内容についての意見交換をしました。研究所の運営と研究内容に大変丁寧且つ熱心に尋ねられ、答える方が緊張を隠せませんでした。矢作川全体の自然の保全に関わる研究所の有り様に理解いただきおおいに元気づけられ研究員に自信がみなぎりました。

今年度は、研究所にとっていろいろの自然・環境保全に関わっておられる団体、研究者や研究機関との交流が深まった年といえます。8月に「水シンポジウム2007 in あいち」(土木学会水工学委員会)、9月には「応用生態工学会第11回研究発表会」が名古屋市で開かれ、11月に「日本珪藻学会第27回研究集会」が豊田市で開催され研究員が運営に関わったり、研究成果の発表、研究所の紹介をしまりました。また、「第2回天然アユを増やすと決めた漁協のシンポジウム」(11月、天然アユ保全ネットワーク)が豊田市で開催され、矢作川漁協とともに運営に協力し、多くの川仲間や川とアユの研究者が集い、天然アユが棲む川について熱い議論が重ねられました。

大変悲しい知らせがありました。5月に研究所顧問の田中蕃さんが亡くなられました。研究所の創設に尽力いただき、創設以来研究所の運営に携わり研究員のリーダーとして活躍され、また、研究員の兄貴分として公私ともども良き相談相手であり着飾ることなく研究のパートナーを努めておられたのが印象的です。蝶の研究の第一人者でありながら、地元豊田に根を張り豊田市や愛知県の蝶の研究はもとより昆虫と植生、土地利用との関わりを蝶の目線で捉え追求する姿勢は一貫しており、自然保護・河川環境の保全を強く訴え続けておられました。

12月には豊田土地改良区(前枝下用水)の事務局長の今井勝美さんの訃報が届き、体の不調を聞いて間もないことであり、皆、肩を落とし身震いがとまりません、そんな思いをいたしました。今井さんは、研究所創立メンバーの枝下土地改良区の事務長であり、はじめより矢作川研究所運営協議会の幹事を務めていただき、縁の下の力持ちに徹し研究所の運営を支えていただいたお一人です。「矢作川研究」創刊号より毎回「矢作川の水収支の概要」を執筆いただき、川と水は謂わば人と命の関係に等しくおもわれ、よく整理された「水利用の状況とデータ」は川の様相が一目で分かり、川の生態系調査と研究には欠かせない資料でした。

お二人とも研究所の創立に大変尽力いただき、今までの12年間ずっと支えていただいた大切なパートナーであり、その業績を称えるときにも感謝の念をささげたいとおもいます。ここに、お二人の冥福をお祈りすると共に、この悲しみをバネにお二人の意思と精神をしっかりと受け継ぐよう、より研究に精進したいとおもいます。今後とも、今まで以上に多くの皆様の限らないご支援とご協力をお願いいたします。